

# 旧金沢第一高等女学校

# ゆかりの保育園継承

石川県の女子教育の中心的役割を担った旧制県立金沢第一高等女学校の校歌が、閉校から65年の時を経て、金沢市内の保育園の園歌として引き継がれることになった。唱歌「故郷」の作曲者が105年前に手掛けた歌で、閉校後も同窓会などで歌い続けられてきた。園児の健全な成長を願う歌として新たな命を吹き込み、末永く後世に伝えていく。

「故郷」作曲者手掛け  
校歌は1908(明治41)年5月制定で、作曲は唱歌「故郷」。「春が来た」の岡野貞一、作詞は唱歌「箱根八里」の鳥居枕と、当時一流の音楽家が手掛けた。1948(昭和23)年の閉校後も、卒業生が心のよりどころとして愛唱してきた。

この歌を園歌として受け継ぐのは、金沢市長土堀1丁目の「さいび園」。第一高女の同窓会「済美会」が学校跡地に建てた会館内に68年に設立された。

校歌継承のきっかけは昨年10月、さいび園の上出佳子園長(65)が済美会の総会に出席した際、同窓会員のほとんどが80歳以上だと知ったことだった。卒業生の高齢化で歌声が途絶えることを危惧した上出園長が、園歌として継承することを



金沢第一高等女学校の卒業生である外代樹夫人をたたえ、校歌を斉唱する同窓会員  
11月9日、台湾・台南市

## 閉校65年、歌い続け

提案し、快諾を受けた。さいび園は設立当初から園歌がなく、保護者から子どもたちの心に残る歌がほしい」などの声寄せられ

# 校歌に新たな命

### メロディーそのまま 親しみやすく作詞

ていた。校歌のメロディーはそのままだに、園児が親しみやすい曲調に編曲し、歌詞は上出園長が新たに作詞した。

#### 12月に園児お披露目

園児たちは今月から歌の練習を始め、12月のお披露

目に向けて元氣よく声を響かせている。上出園長は多くの卒業生の思いがこもった校歌を園児に託し、未来に伝えたいと話した。

で水利に尽くした八田與一技師の妻・外代樹が第一高女出身のため、先月、外代樹像の除幕式が行われた際には、卒業生が現地で校歌を斉唱してたたえた。済美会の新村美智子会長(80)は「私たちの校歌のメロディーが、いつまでも人々の心に響くことがうれしい」と語った。



元氣よく園歌を練習する園児  
金沢市長土堀1丁目のさいび園

#### 旧金沢第一高等女学校校歌

御代久方(みよひさかた)の天地(あめつち)の神の心もうごかすは世にもけ高き乙女子(おとめご)が貫き通す至誠(しせい)ぞや

#### さいび園の歌

きらきら かがやく 金沢のふたつの流れに かこまれて 楽しく集まる 子ども達 大きくなります さいび園

金沢第一高等女学校 1898(明治31)年、金沢市が県費補助を受けて同市高岡町高等小に併設し、1901年、県に移管された。同年、同市水町に新校舎を建築。女子教育に貢献した。1948年、学制改革により金沢二高となり、翌年、二水高となった。